

福島第一原子力発電所の状況

2015年6月17日
東京電力株式会社

<1. 原子炉および原子炉格納容器の状況> (6/17 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉压力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力	原子炉格納容器 水素濃度
1号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.0 m ³ /h	23.4 °C	0.5 kPa g	A系： 0.00 vol%
		給水系：約 2.2 m ³ /h			B系： 0.00 vol%
2号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.4 m ³ /h	30.0 °C	5.22 kPa g	A系： 0.01 vol%
		給水系：約 1.9 m ³ /h			B系： 0.02 vol%
3号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 2.3 m ³ /h	27.0 °C	0.23 kPa g	A系： 0.02 vol%
		給水系：約 2.0 m ³ /h			B系： 0.04 vol%

【1号機】

・2015/6/12 6:10 頃～ 1号機原子炉格納容器ガス管理設備(以下「PCVガス管理設備」という。)B系の放射線検出器の電圧が低下したことにより、監視不能と判断。

当該設備(B系)の状況を確認したところ、検出器を冷却する装置の冷却機能が一時的に低下したため、検出器の機器保護のため高圧電源の印加が遮断され、機器異常が発生したものと推定。なお、冷却装置の機能一時低下の要因としては、冷媒中の不純物が凍結したことに起因する詰まりが発生したためと推定しており、凍結した不純物が溶解すると、冷却装置の機能が回復したため、一過性のものと考え。

16:45 冷却機能回復後に採取したデータに異常がないことを確認したことから、当該設備(B系)は監視可能な状態に復帰(使用可能)したものと判断。

6/13 4:36 キセノン 135 の指示が 1.34×10^{-3} Bq/cm³ からダウンスケールとなったことから、当該設備(B系)は動作不良と判断。今後、原因の調査および当該設備(B系)の点検を行う。

その後、当該設備(B系)の点検を行ったところ、冷却機能低下が疑われたことから、6/16に原因の可能性のある機器として、冷却装置、検出器の交換を実施。交換後の当該設備(B系)の指示については、事象発生前のデータと比較し同等であり、指示値も安定していることから、6/17 12:45 に当該設備(B系)による監視を再開。なお、当該設備(A系)については、正常に動作しており、プラントデータ監視に支障はない。また、プラントデータ(原子炉压力容器底部温度、格納容器内温度等)の異常、モニタリングポスト指示値の有意な変動は確認されていない。

<2. 使用済燃料プールの状況> (6/17 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	26.0 °C
2号機	循環冷却システム	運転中	25.4 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	23.1 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	21.4 °C

※ 各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルへヒドランジンの注入を適宜実施。

<3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況>

号機	排出元	→	移送先	移送状況
2号機	2号機 タービン建屋	→	集中廃棄物処理施設(高温焼却炉建屋)	6/11 10:15 ~ 移送実施中

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (6/17 11:00 時点)

設備	セシウム吸着装置	第二セシウム吸着装置(サリー)	淡水化装置(逆浸透膜)	淡水化装置(蒸発濃縮)	多核種除去設備(ALPS)	増設多核種除去設備	高性能多核種除去設備
運転状況	運転中*1	運転中*1	水バランスをみて断続運転	水バランスをみて断続運転	ホット試験中*2	ホット試験中*2	ホット試験中*2

*1 フィルタの洗浄、ベッセル交換を適宜実施。

*2 高性能容器(HIC)交換等を適宜実施。

<5. その他>

- 2014/6/2～ 陸側遮水壁工事を開始。
- 2015/4/30 12:00～ ブライン(不凍液)循環設備の健全性や地下水の流れによる影響等の確認のため1～4号機建屋の山側(18箇所)を対象に試験凍結を開始。
- 2015/5/27～ 構内で今後使用しないフランジボルト締めタイプのRO濃縮水貯槽(フランジ型タンク)の解体作業を開始。
- 2015/6/16 13:20頃 多核種除去設備建屋内にて、協力企業作業員が作業中につまずいて転倒し、負傷。その後、入退域管理棟救急医療室にて医師の診察を受けたところ、右大腿骨膝関節部骨折の疑いがあると診断されたため、14:53 に救急車を要請。なお、当該作業員に意識はあり、身体に放射性物質の付着はない。その後、いわき市立総合磐城共立病院で診察を受けた結果、「右大腿骨内顆骨折」、全治約3ヶ月程度の見込みと診断された。

【1号機原子炉建屋カバー解体作業】

- 2015/3/16 1号機の原子炉建屋カバー(以下、建屋カバー)解体工事に向けて準備工事を開始。
- 5/15 6:45～5/20 13:11 建屋カバー屋根パネルからの飛散防止剤の散布作業を実施。当該作業期間中において、ダストモニタ及びモニタリングポストのダスト濃度等に、有意な変動は確認されていない。
- 屋根パネル(計6枚)の取り外し作業を5/26頃から開始することとしていたが、原子炉建屋3階機器ハッチ開口部に設置したバルーン※が、所定の位置に設置されていないことが確認され、復旧に時間を要することから、屋根パネルの取り外し作業を延期する。なお、ダストモニタおよびモニタリングポストのダスト濃度等に有意な変動は確認されていない。
- ※建屋カバー解体作業に伴う放射性物質放出抑制対策として、開口部の面積を小さくすることで放射性物質の放出量を抑える(少なく)ことを目的に設置。

【海水配管トレンチ立坑閉塞充填作業状況】

- 【2号機】・2015/2/24～ 海水配管トレンチの閉塞を目的として、立坑への閉塞材料の充填作業を実施中。
- 5/27 立坑A、Dについて充填完了。
- 【3号機】・2015/5/2～ 海水配管トレンチの閉塞を目的として、立坑への閉塞材料の充填作業を実施中。
- 6/12～ 当該作業に伴う海水配管トレンチ内の滞留水については、塩分濃度等を考慮しつつタービン建屋へ排水しているが、タービン建屋滞留水の塩分濃度が上昇した場合、汚染水処理に影響を及ぼすことが考えられるため、一時貯留先として1号機復水貯蔵タンク(以下、「1号機CST」という。)へ滞留水の受け入れを行う。その事前準備として、受け入れ可能な容量を確保する目的で、1号機CSTに貯留されている汚染水を1号機廃棄物処理建屋へ移送を行う。
- 【4号機】・2015/4/15～ 海水配管トレンチの閉塞を目的として、開口部への閉塞材料の充填作業を実施中。

【地下水バイパス揚水井の状況】

- 地下水バイパス揚水井 No.1～12 のサンプリングを継続実施中。
- 地下水バイパス一時貯留タンクグループ2の当社および第三者機関による分析結果[採取日 6/7]については同等の値であり、ともに運用目標値を満足していることを確認。

【構内側溝に敷設されている耐圧ホースからの漏えいについて】

<K排水路排水口のサンプリング実績>

- ・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。
- また、港湾口連続モニタの値に有意な変動が確認されていないことから、外洋への影響はないものと考えている。引き続き、監視を継続する。

【H4,H6エリアタンク周辺観測孔(周辺排水路含む)の状況、タンクパトロール結果関連】

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

- ・6/15、16 悪天候のため採取を中止している。

<福島第一構内排水路・南放水口のサンプリング実績>

・6/15、16 は悪天候のため採取を中止している。

<H6エリア周辺のサンプリング実績>

・6/15 は悪天候のため採取を中止している。

【タービン建屋東側の地下水調査／対策工事の実施状況】

<地下水観測孔サンプリング実績>

・6/16 は悪天候のため採取を中止している。その他の分析結果については、前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

<地下貯水槽サンプリング実績>

・前回採取した測定結果と比較して大きな変動は確認されていない。

以上